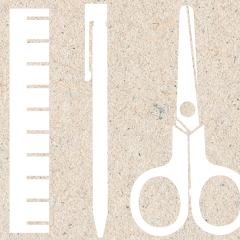
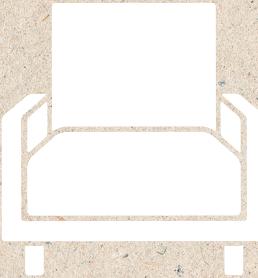


会社案内

2023 — 2024



無印良品について



1980年当時の40品目

無印良品の誕生は1980年。起点はものの生産プロセスを徹底して合理化することで簡潔で気持ちのいい低価格商品を生み出すことでした。「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」を通して見つめ直した実質本位の商品をつくり続けています。1983年に東京・青山に無印良品の単独店を出店、ものづくりから店舗環境、スタッフの接客まで、一貫した思想のもとで推し進め、気持ち良くお買い物をしていただける空間を目指してきました。

現在^{*}、無印良品は、世界32の国・地域に1,000店舗以上を展開し、商品アイテムも、衣服や生活雑貨、食品、そして家まで揃えました。しかしその思想の根幹は誕生当時と変わらず、北をさす方位磁石のように、生活の「基本」と「普遍」を指し続けています。

*2023年8月末現在

会社概要

会社名	株式会社良品計画
所在地	〒112-0004 東京都文京区後楽二丁目5番1号 住友不動産飯田橋ファーストビル
ホームページ	https://ryohin-keikaku.jp/
設立	1989年6月(登記上1979年5月)
代表取締役会長	金井 政明
代表取締役社長	堂前 宣夫

資本金	67億6,625万円
決算日	8月末日
年商	5,814億12百万円(2023年8月期) (良品計画グループ連結営業収益)
従業員数	20,795名(2023年8月期) (臨時従業員等10,721名を含む／良品計画グループ)

「第二創業」100年後のより良い未来の実現に向けて

代表取締役社長 堂前宣夫

株式会社良品計画は、2021年9月、「第二創業」を掲げ、企業理念を再定義しました。当社は「人と自然とモノの望ましい関係と心豊かな人間社会」を考えた、商品、サービス、店舗、活動を通じて、「感じ良い暮らしと社会」の実現に貢献することを企業理念とし、100年後のより良い未来の実現を目指してまいります。



企業理念を実現するために、2つの使命を掲げました。第一の使命は、「日常生活の基本商品群を誠実な品質と倫理的な視点から開発し、使うことで社会を良くする商品を、手に取りやすい価格で提供する。」これは、日常生活に不可欠な商品・サービスにおいて、過剰品質ではなく不足していることもなく、本質を担保し、余分を削ぎ落としたちょうど良い商品やサービスを、お客さまに提供することを目指すものです。第二の使命は「店舗は各地域のコミュニティセンターとしての役割を持ち、地域の皆さんと課題や価値観を共有し、共に地域課題に取り組み、地域への良いインパクトを実現する。」商品を販売している店舗が、単なる売場としてだけではなく、地域で生活者が集まる場となり、人と人をつなげコミュニティを形成する触媒となることや、スタッフが地域を良くする活動に自発的に貢献する人々の集団となる、ということを目指しています。

当社には「社会や人の役に立つ」という、根本方針があります。社員および事業関係者一人ひとりが、社会全体や地球で今起きている課題に敏感に呼応し、提供するすべての商品・サービス、企業活動において、地球環境負荷低減や個人尊重に努めることが、すべての企業活動の根幹であると考えています。また、このたび、社員一人ひとり、事業関係者一人ひとりが、各地域が抱える個々の課題の解決や、地域それぞれの活性化に貢献していくよう、「公益人本主義経営」を掲げました。

企業活動を進めることで、高い収益構造をつくり、ステークホルダーの皆さんとともに、社会への良いインパクトを共創することを目指し、長期的な企業価値向上に努めてまいります。



もっと知りたい ▾

<https://ryohin-keikaku.jp/corporate/overview.html>

商品開発について

3つのわけ

無印良品のものづくりの基本となる考え方は変わっていません。時代が変わっても、変わらない3つの視点、①素材の選択、②工程の点検、③包装の簡略化、を守りながら“商品の原点を見直す”という姿勢で実質本位の商品をつくり続けています。

無印良品が目指すのは、「これがいい」ではなく「これでいい」という理性的な満足感をお客さまに持っていただくこと。つまり品質も価格も十分「これでいい」という意味です。ただ、そこに若干含まれているかもしれない不満や妥協を解消して、自信に満ちた「これでいい」を実現していきます。

素材の選択

おいしくて健康にも役立つ食品。着心地よく、身体になじむ衣服。使い勝手を第一に考えた生活雑貨。ふだん見過ごしがちな基本のものづくりのために素材を見直します。品質は変わらないのに、見栄えのために捨てられているもの。業務用の素材。世界中から見つけた原材料や、安価で大量に確保できる旬のものなどを活かして、低価格で質の良い商品が生まれました。

工程の点検

ひとつの商品ができるまでのプロセスを徹底的に点検する。選り分けたり、大きさを揃える手間も不要。不揃いのままだったり、つや出せずに仕上げたり、商品本来の質に関係のないムダな作業を省いて必要な工程だけを活かしました。規格外のサイズ、かたちで捨てられていたものも商品に。素材をムダなく活かし、コストダウンにもなる、実質本位のものづくりです。

包装の簡略化

飾らず、もの本来の色やかたちのままを大切にしたい。過剰な包装をしない。まとめて一括包装に。共通容器に入れる。シンプルなものづくりであると同時に、地球の資源をムダにせず、ごみを減らすこともできるのです。無印良品の商品はすべて、成り立ちのわけが印刷されているパッケージであっさり包まれていたり、タグがつけられているだけで、店頭に並んでいます。



もっと知りたい ▶



無印良品を代表する“生活の基本となる日用品”

無印良品は、日常生活に役立つ、暮らしの基本となる品々を取り揃えています。毎日使うものだからこそ適正な品質と価格でより多くのお客さまに提供することを目指しています。

衣料品

洗いざらしブロードシャツ

(1983年—)

綿本来の風合いを生かすために、洗いざらしで仕上げました。洗ったまま自然なしわを生かしても、きちんとアイロンをかけても着られる定番のシャツです。



デニムパンツ

(1987年—)

時代に合わせて見直しを行いながら定番となったデニム。2022年秋冬より、ユーズド加工やブリーチ加工を施さないことで水や化学薬品の使用量を減らし、環境負荷の軽減にも取り組んでいます。



足なり直角靴下

(2006年—)

かかとの形に合わせて直角に編み立てた、足にフィットしてずれにくい靴下です。無印良品のすべての靴下は直角になっています。



疲れにくいスニーカー

(2013年—)

スムーズな歩行を誘導する、歩きやすく疲れにくいインソールを内装しています。撥水加工を施した生地でつくりました。2023年秋からは、履き心地はそのままに、ハトメ部分を刺繡に変更し、金属パーツを無くしています。



生活雑貨

ふっくらパイルタオル

(2023年—)

2023年にリニューアルしました。繊維長の長い綿を2本使い(双糸)に紡績し、ふっくらと織り上げました。やわらかな肌触りのタオルです。洗濯を繰り返してもふっくら感が続きます。



脚付マットレス

(1991年—)

ベッドとしてだけでなく、ソファのように使えます。発売後も、スチールフレームなどパーツを分離できる構造に変更し部分的な交換を可能にするなど、改良を重ねており、2023年からは組立仕様になりました。



敏感肌用シリーズ

(2000年—)

岩手県釜石市の天然水を使用した低刺激性のスキンケアシリーズです。2023年秋にリニューアルし、天然由来成分100%になりました。敏感肌に不足しがちなセラミドなどを配合しています。



掃除用品システム

(2001年—)

掃除する場所に合わせて、ポールとほうきやフローリングモップなどのヘッドの組み合わせを替えて使う掃除用品のシリーズです。



食品

バナナバウム

(2000年—)

2017年の仕様見直しで、焼きムラや凹凸、変形など、おいしさに関係なくはじかれていたものも生かし、「不揃いバウム」としてリニューアルしました。



フライパンでつくるミールキット (2021年—)

カットされた魚介類や肉と野菜とソースがセットになった冷凍食品です。具材を冷凍のままフライパンに入れて炒め、ソースをからめるだけで簡単に一品できあがります。魚や肉をメインにしたメニューでおつまみにも適しています。



素材を生かしたカレー バターチキン (2009年—)

3種のトマトと鶏肉のコクを生かし、ギーでまろやかに仕上げました。現地の味と文化に学び、これまでに4回の見直しを重ねながらおいしさを追求しています。



もっと知りたい ▾

<https://ryohin-keikaku.jp/about-muji/history/>

新商品・サービス この一年

自然素材を使用した衣料品を拡大

(2023年1月・3月発売)

環境に配慮した自然素材を活用し、着心地の良いベーシックな衣料品を提供できるよう企画開発に取り組んでいます。化学肥料や農薬をほとんど使用せず自然に近い環境で育つヘンプやカポックを使用した衣料品のアイテム数を拡大しました。軽さが特長のカポックはジャケットやコートなどのアイテムに、麻同様に通気性や吸放湿性に優れているヘンプは、夏向けのシャツやブラウス、ワンピース、ボトムスなどに活用し、着心地の良い衣服に仕立てました。



商品例：ヘンプ洗いざらしレギュラーカラー長袖シャツ

環境配慮型の商品を拡大

(2023年5月発売ほか)

日々の暮らしを豊かにするだけでなく、使うことで社会を良くする商品を手に取りやすい価格で提供することを目指した商品開発を進めています。収納用品や家具には、マニラ麻や竹など自然素材でかつ生育が早い植物を使用しています。マニラ麻は3年程度で収穫ができ、虫も付きにくく農薬使用が抑えられるので環境負荷が低い植物です。竹は、繁殖力が非常に強く、伐採し活用することで、里山を守ることにもつながります。



商品例：バクバク 持ち手付 オーバルバスケット 大

地域活性化や地産地消を目指した商品開発

(2023年4月発売ほか)

当社では、地域の方々や自治体と連携し、地域の課題解決や、地産地消の推進、雇用創出、地域活性化に寄与することを目指す取り組みを推進する組織として地域事業部を設置しています。その活動の一つとして地域の生産者や加工会社と協力して独自商品の企画から販売までを行っています。2023年は、使われず廃棄されていた大和当帰(やまととうき)の葉を活用した「大和当帰葉のアヒージョ」や、地元で育てた有機野菜の消費拡大を目指したパスタソースやリゾットを企画・発売しました。



月額定額サービスの本格化

(2023年2月より)

家具を買い揃えることなく、日々安価な利用コストで、必要な家具を利用いただき、契約期間満了後には買い取りもしくは返却かを選択できる月額定額サービスの対象商品を35アイテムから72アイテムへと拡大しました。返却された家具は、中古品として販売したりしています。当社は、良い家具は人から人へと伝承されるもの、メンテナンスして使い続けられるものと考え、中古の家具があたりまえに活用・循環する社会の構築を目指しています。



ローソン店舗での展開拡大と各地域生協への供給拡大

(2023年)

2022年よりローソン店舗にて無印良品の本格展開がはじまり、2023年4月に47都道府県での取り扱いにまで拡大しました。また、各地域の生活協同組合への商品供給も拡大し、2023年には、中国地方5生協、四国地方4生協、東海地方3生協、東北地方8生協に商品供給を順次開始しました。各生協の宅配サービスを通じて無印良品の商品購入が可能になりました。



遊休資産を活用した中長期滞在型施設「MUJI BASE」の展開開始

(2023年8月)

全国各地で空き家、空き地の遊休資産を利用して地域に溶け込み、無印良品のある暮らしを楽しんでいただくことをコンセプトに、千葉県鴨川市にある古民家をリノベーションした中長期滞在型施設「MUJI BASE KAMOGAWA」を8月にオープンしました。遊休不動産などを中長期滞在施設として活用することで、知らない土地で豊かな感性を育み、生活の知恵を学ぶことができるような地域拠点となることを目指しています。



もっと知りたい ▶

<https://www.ryohin-keikaku.jp/news/>

店舗について

無印良品は、衣・食・住の生活の基本領域において、品質と意味を磨き続けた商品を適正価格で提供すること、また、それぞれの店舗がその地域の活性化に取り組む個店経営を推進することで、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指しています。その店舗数は、日本を含む32の国・地域で1,000店舗以上となっています。これからも、各国・地域の皆さまの「役に立つ」存在となるために、商いを通じて「人と社会」に貢献することを目指していきます。

■ 日本国内店舗数	
無印良品店舗	562
Café&Meal MUJI 店舗	26
IDÉE 店舗	
IDÉE 店舗	9
■ 海外 国・地域別 MUJI 店舗数	
■ 海外 国・地域別 MUJI 店舗数	626
中国大陸	361
香港	20
台湾	61
韓国	40
イギリス	7
フランス	7
イタリア	6
ドイツ	7
スペイン	4
ポルトガル	1
アイルランド	1
スウェーデン	1
スイス	1
フィンランド	1
デンマーク	1
ボーランド	1
アメリカ合衆国	10
カナダ	9
シンガポール	11
マレーシア	9
タイ	29
インド	2
オーストラリア	4
フィリピン	6
ベトナム	6
クウェート	3
UAE	7
サウジアラビア	5
バーレーン	2
カタール	2
オマーン	1
■ 海外 Café&Meal MUJI 店舗数	
Café&Meal MUJI 店舗	28
(2023年8月末時点) ※ライセンスストア含む	



無印良品 前橋中央通り商店街

2023年2月10日オープン／売場面積：約114m²

「無印良品 前橋中央通り商店街」は、近隣にお住まいの皆さまの「周辺に日用品を取り扱う店舗がない」というお声を受け、日常生活に役立ち、かつ環境にも優しい日用品・消耗品を中心に取り揃えたお店です。群馬県内で活躍する生産者や加工会社の商品約70品目も取り扱い、地元商品の認知向上、地産地消の拡大にも貢献しています。また、商店街への新規出店をサポートする取り組みとして、地元の生産者や事業者を対象にした「一坪開業」のスペースを設けています。



無印良品 板橋南町22

2022年11月17日オープン／売場面積：約3,924m²

「無印良品 板橋南町22」は、食品スーパーに隣接する関東最大級の売場面積を持つ大型店です。日用品を中心にキッチン用品やタオル、収納用品、季節に合わせた着心地のよい日常着や食品など、毎日の暮らしを快適にする商品やサービスを取り揃えています。店内にはオープンテラスがあり、「MUJI Kitchen」で調理した軽食のイートインスペースとしても利用できます。また、地域活性化の取り組みとして、板橋区が推進する「絵本のまち板橋」と連動した店づくりや、区民が選定した「板橋のいっぴん」の販売を行い、地域のコミュニティセンターになることを目指しています。



無印良品500 アトレヴィ三鷹

2022年9月30日オープン／売場面積：約181m²

食品をはじめ多くの生活必需品の価格高騰が続く中でも、暮らしの基本を支える商品の提供を目指し、「無印良品500」は、日用品や消耗品など500円以下の商品を中心に品揃えしています。洗剤や掃除用品、キッチン用品、トイレットペーパーなど紙類、歯ブラシや歯磨き粉などの洗面用品、スキンケア用品、下着やくつ下、文房具、スープやクッキーなどの食品・菓子などを揃えています。通常の無印良品と比べて売場面積をコンパクトにし、駅ナカや駅チカ、街中など、日常的に来店しやすい生活圏に出店しています。



無印良品 広島アルパーク

2022年4月22日オープン／売場面積：約6,192m²

「無印良品 広島アルパーク」は、世界最大の売り場面積と日本国内最大級の品揃えを持つ「生活全部店」です。無印良品の基本となるすべての商品とサービスを提供するとともに、レモンなどの地元産青果、牡蠣など名産品の加工食品販売や、地域の方に店出いただき一緒にマルシェ販売やイベントを行う「つながる市」、気軽に健康相談ができる「まちの保健室」など、「地域の皆さんとすこやかな暮らしをつくる」をコンセプトとした商品・サービス・イベントを用意しています。加えて、フードロスや環境負荷を考慮し、穀類や茶葉・コーヒー豆、洗剤やシャンプーなどの量り売りも実施しています。



無印良品 上海静安嘉里(中国大陸)

2023年2月10日オープン／売場面積：約862m²

「無印良品 上海静安嘉里」は、リサイクル素材や環境負荷の少ない素材などを店舗の内装や什器に使用しています。MUJI 上海では、サステナビリティ委員会を設置し、子ども福祉、気候変動、水問題など取り組む課題を明確化して活動しています。その一環として同店は、環境に配慮した素材を約8割使用する設計としました。床面には回収した酸洗鉄板を再利用したり、環境負荷の少ない珪藻土を壁面に使用したり、レジカウンター台には改裝・閉店した当社の他店舗の木材を利用したりしています。また、お客様が利用する買い物かごには海洋プラスチックを使用しています。



MUJI-SM NORTH EDSA(フィリピン)

2023年6月9日オープン／売場面積：約2,355m²

「MUJI-SM NORTH EDSA」は、マニラ首都圏で最も人口が多いケソンシティにあるフィリピンで最大面積の店舗です。日常の生活を支えることを目指し、日々の生活に密接に関わる「食」にも注力することが重要だと考え、「コーヒーカウンター」を設置しています。コーヒーカウンターでは、現地で仕入れた豆を使い、コーヒーを販売しているほか、同国で初めて販売する無印良品のレトルトカレーも米飯と共に提供しており、人気となっています。コーヒーを飲みながらお仕事をされるお客様や、家族で来られて食事を楽しむお客様など、多様なお客様にご利用いただいています。

もっと知りたい ▾



<https://ryohin-keikaku.jp/topics/stores/>

感じ良いくらしの実現

当社が展開する無印良品は、単なる製品の集まりではありません。くらしの些細な断片から地球規模の未来までを見通し、考え方配りの集合体でありたいと思います。社会で今、起きているさまざまな課題に敏感に呼応し、「良心とクリエイティブ」からそれらをより良い方向に解決していくプラットフォームでありたいと願っています。この想いのもと、さまざまな活動に着手しています。



「商い」を通じて社会に貢献する

当社は、ESG 経営のトップランナーを目指しています。各自治体や地元住民が主役となって、それに無印良品が巻き込まれるかたちで地域を活性化していくさまざまな取り組みや、地球資源の循環化および廃棄物削減の取り組みを進めています。



地域の課題解決や まちづくりに貢献する取り組み

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現を目指して、無印良品の店舗を軸に、地域課題の解決やまちづくりへの貢献を図る活動を地域の方々と共に進めています。

その一環として、省庁や自治体と連携する取り組みを拡大しています。2023年には千葉県多古町(1月)、群馬県前橋市(1月)、新潟県(4月)、広島県(4月)、広島県安芸高田市(4月)、農林水産省・株式会社良品計画・株式会社 MUJI HOUSE の3者による協定(5月)、岐阜県可児市(6月)、茨城県日立市・日立商工会議所・いばらきコープ生活協同組合・株式会社良品計画の4者による協定(7月)と、省庁や自治体などの8つの連携協定を締結し、2023年8月末時点で約30の省庁、自治体と連携協定を締結しています。

今後も自治体や地元企業、地元住民の方々と連携して地域振興につなげるとともに、地域の暮らしの役に立つことを目指していきます。



「いつものもしも」 防災プロジェクトの取り組み

無印良品は、2011年から使い慣れた日用品などを利用して日ごろから災害に備えるための啓発活動「いつものもしも」を実施しています。そのひとつである「いつものもしも CARAVAN」は、「地域とつながる・楽しく学べる」をコンセプトに、子供から大人まで楽しく防災を学ぶことができるイベントです。地域住民、企業、行政が垣根なくつながることで地域全体の防災力が向上することを目指し、2023年には、日本全国6ヶ所で開催しました。8月には、保存期間が長く、災害時にも役立つ「備蓄ごはん 白米」や「備蓄おやつ チョコようかん」など4アイテムを発売しました。家庭だけでなく、企業や自治体の備蓄品にも活用することができます。

また、日頃から備える「いつものもしも」の考えは、海外にも展開しており、MUJI 台湾でも取り組みが行われています。



プラスチックごみの削減および 資源の循環化への取り組み

プラスチック製パッケージを用いるすべての商品で、可能な限りパッケージをなくしたり、再生紙などの代替素材に変更する取り組みを行っています。2021年秋冬商品からはプラスチック製の衣料品のタグピンをFSC®認証紙(再生紙を含む)を使用した紙製タグピンに順次変更しています。

また、プラスチックの収納用品やスキンケア商品のPETボトルの回収を開始しました。回収された製品は、再販売または、再生原料や再生材入りの商品をつくる素材として活用します。また、プラスチックに代わる素材として軽くて丈夫な紙素材の硬質紙のファイルボックスも新たに発売しました。



もっと知りたい ▾

<https://ryohin-keikaku.jp/sustainability/community/connection/>

さまざまなかたちの無印良品



MUJI to GO 無印良品をぎゅっと凝縮。

MUJI to GO は無印良品の全商品から、旅・移動・ビジネス・学習・遊びに役立つアイテムをぎゅっと凝縮した厳選ショップです。便利な機能付きの文具や旅行が楽しくなるグッズ、普段の暮らしをそのまま持ち運べるものなど、空港で出会うとうれしいアイテムが揃っています。

<https://www.muji.com/jp/mujitogo/>



Found MUJI 世界中から、良いものを。

ものをつくるというよりは、「探す、見つけ出す」という姿勢でくらしを見つめ、世界中で永く使われてきた日用品を揃えています。もののエッセンスを残しつつ、現代の生活や文化、習慣に合わせて少しだけ改良し、適正な価格で再生していく活動を、これからも皆さんと一緒にやっていきます。

<https://www.muji.net/foundmuji/>



無印良品 500 500円以下の日用品を中心に集めました。

毎日の暮らしに欠かせない日用品や消耗品を、環境に配慮したものづくりと500円以下を中心とした価格で、インナーやキッチン用品、スキンケア用品、レトルト食品など、無印良品の衣料品・生活雑貨・食品の商品のなかから選びました。

<https://www.muji.com/jp/ja/feature/dailygoods/1065486>



EC 事業

無印良品は、暮らしの基本となる品々を無駄な包装や工程を省くことで、お求めやすい価格にて提供しています。自社 EC サイト「無印良品ネットストア」の運営に加え、「Amazon」や「楽天市場」などの通販サイトへ出品、出店することによって、本当に必要なものを適切な品質と価格でより多くのお客さまに提供し、さらなる利便性の向上を目指します。

<https://www.muji.com/jp/ja/store>



カフェ・ミール事業

無印良品のカフェを展開しているカフェ・ミール事業では、「素の食」をテーマとし、野菜のメニューを中心に、季節の素材やこだわりの食材をたっぷりと使った、体にやさしく食べておいしい料理、デザート、ドリンクを提供しています。

<https://cafemeal.muji.com/jp/>



イデー事業

家具・インテリア等のホームファーニシングの企画・製造・販売を展開するイデー事業ではオリジナル家具および雑貨、アンティーク、カーテン、ラグといった商品を展開し、物販店舗以外では空間に関わるプロデュース、コンサルティング、デザイン業務を行っています。

<http://www.idee.co.jp/>



キャンプ事業

「過剰なサービスは省きましたが、自然は豊かです。」をスローガンに、津南キャンプ場(新潟県・津南町)、南乗鞍キャンプ場(岐阜県・高山市)、カンパニーニヤ嬬恋キャンプ場(群馬県・嬬恋村)の3つの拠点でキャンプ場を運営し、合計で約70万坪の森林を管理しています。また、3つのキャンプ場では、地域の方に講師として参加していただくアウトドア教室の開催を通して、自然への理解を深めていただく活動を行っています。

<https://www.muji.net/camp/>



株式会社 MUJI HOUSE

株式会社 MUJI HOUSE は、「家」という器を通して無印良品の考える「くらし」の提案を行っています。「無印良品の家」には、無印良品が手掛ける日用品のように、使い心地が良く、無駄を省いた理にかなったかたちや機能を持ち、耐久性があって、愛着を持って永く使える、無印良品らしい考え方方が貴かれています。

<https://www.muji.net/ie/>



株式会社良品計画

〒112-0004 東京都文京区後楽2-5-1 住友不動産飯田橋ファーストビル

<https://ryohin-keikaku.jp/>



Ryohin Keikaku Co., Ltd.

Iidabashi First Building 2-5-1 Koraku, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0004, Japan

<https://ryohin-keikaku.jp/eng/>

